

「農業簿記」は 自立のための 身近な道具



安形 京子

AGATA Kyoko

税理士法人 Agata
代表社員
(愛知県豊川市)

30年近く前、私が税理士になってまず取り組みたかったのが、農家さんの自立でした。経営実績を知るために記帳するというのは今でこそ当たり前ですが、当時は確定申告のために仕方なくする、という人が多かったのです。とにかく年に一度、農協や市役所、税務署に他人事のように収支のみ作成してもらって良しとしていました。そんな農家さんに会計の大切さを伝えたくて、私はずっともがいてきました。全国農業経営コンサルタント協会や日本政策金融公庫の農業経営アドバイザー制度と出会ったおかげで、その取り組みに大いに弾みがつきました。

農業経営の基本は、技術、営業、会計です。私はこのうち会計分野で、自立した農業経営者になっても

らえるよう、身近な存在でありたいと思っています。農業簿記や税務会計の講師、経営相談が、すっかり私のライフワークになっています。

農業の支援といっても、さまざまな課題が難しく絡み合っているた

「儲かる農業を」「儲けられる仕組みを」などと口走るとき、中山間地域の農家さんから「違うんだよ、俺たちが望んでいるのは地域をどう守っていくかなんだよ」と眼光鋭く言われたときは、返す言葉もなく、



©角田 展章

め、農業改良普及所や農協、市役所、金融機関、税理士などが真摯に向き合い、それぞれが縦割りの判断に陥りがちなところを、うまく連携して支えていくことが重要です。

また、私は会計を教えるだけでなく、根っから農業にかかわる人々が好きなようです。彼ら彼女の表情の豊かさ、笑顔の美しさに魅了されます。それぞれが、「この景色を将来に残したい」「安心安全な食料を供給したい」と、自分たちの役割を十分理解しているし、どっしり地に足がついています。職業柄

実に学ぶべきことが多いものです。

さらに、私は農山漁村女性活躍表彰事業の審査員としてかかわっていますが、近年の農家の女性の活躍ぶりには、目覚ましいものがあります。戦後、女性はきわめて辛い境遇のなか、自分の居場所を切り開いてきました。努力の甲斐あり、年々他の職業と遜色なくなってきたことを、本当にうれしく思っています。

「日々の安寧と食料を守る」ことこそ、国づくりの基礎です。農業の重要性を改めて肝に銘じつつ、もっと精進したいと思っています。 **F**

あがた きょうこ

福島県会津生まれ。社会福祉分野から転身。養豚農家(廃業)に嫁ぐも食べられず税理士となる。誰かの役に立つのがうれしい私には天職。経営の要の「農業簿記」を広めたい。



農業経営アドバイザーは農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆しています。